

にほんご人 お〜い!

国際交流基金ベトナム日本文化交流センター

ニュースレター2016年7月号 (第二号)

- ❖ 「にほんご人お〜い！」第二号発刊にあたって
- ❖ 日本語力アップ
- ❖ シンチャオ先生
 - ◆日本語教師にインタビュー
国際交流基金ベトナム日本文化交流センター(Ho Chi Minh)
JF 講座講師 Pham Thi Phuong Oanh 先生
 - ◆生徒にインタビュー
国際交流基金ベトナム日本文化交流センター(Ho Chi Minh)
JF 講座受講生 Tran Thi Bich Phuong さん
- ❖ 日本語でお仕事
 - ◆働く人ーベトナム人への質問
キヤノンベトナム株式会社(Bac Ninh) Nguyen Thi Thuy Duong 様
 - ◆一緒に働く人ー日本人への質問
キヤノンベトナム株式会社(Bac Ninh) 山崎 浩一様
- ❖ 笑顔の日本語クラスーいけばなで学ぶ日本語 2016 in ハイフォン
- ❖ 日本語パートナーズさん ありがとうございました



「にほんご人お〜い！」 第二号発刊にあたって

以前のニューズレター「せんせい おーい！」を4月に新しく「にほんご人 おーい！」に名前を替えて二回目の発刊となります。

「にほんご人」とは、日本語教師、日本語学習者、日系企業に勤める日本人やベトナム人、趣味で日本や日本語に興味を持つ方も含まれます。国際社会において日本語を使いコミュニケーションをとったり、ビジネスを行ったり、日本語で何かの目標を達成しようとする人々のことです。

今号の記事も、「なるほど」と感心したり、納得したりするような記事が集まりました。その中のいくつかをほんの少しだけご紹介しましょう。あなたもきっと読んでみたくなると思います。

「日本語でお仕事」：これはキャノンベトナムの記事ですが、ベトナム人スタッフから「キャノンベトナムは第二の家族」という言葉が聞かれるのだそうです。これは日々のどのような企業環境から出てくるのでしょうか。

「シンチャオ先生」：ホーチミンの国際交流基金ベトナム日本文化交流センターで教えるベトナム人日本語教師の話を取り上げています。教師になる前、日本語の勉強を諦めかけた時があったそうですが、なぜ今、日本語を使った教師という職業を続けているかなどが気づられています。

これからも、日本語と関連のある方々にお役に立つ情報をお伝えしていきますので、末長く見守っていただきたいと思います。

最後に、刊行にあたり記事を執筆・ご提供くださった方々に深く御礼を申し上げます。今後とも、よろしく願いたします。

「にほんご人 おーい！」編集長 栗原 幸則

コロケーション

皆さんはコロケーションという言葉を知っていますか？

「ロケーション」ではありませんよ。「コロケーション」です。言語教育でしか使われていない言葉なので日本人も普通は知りません。ですが、日本語を勉強するときに「コロケーション」を知っているととても便利ですので今回ご紹介したいと思います。

◇コロケーションって何？◇

簡単に言うと言葉と言葉の『繋がり』のことです。

例えば、「すし」と聞くと「食べる」という言葉が思い浮かぶと思います。この言葉の繋がり(結び付き)のことをコロケーションと言うのです。いろいろな言葉の結び付きを知ると日本語力アップに繋がります。ちょっとやってみましょう♪

【クイズ】

◆ 次の言葉の後ろにくる動詞は何ですか？

1つ考えてください。

注意



⇒「する」という言葉が思い浮かびましたか？多くの人は「注意する」という言葉になったのではないのでしょうか？ 他にはどんな動詞がありますか？

◆ 次の言葉の後ろにくる形容詞は何ですか？

1つ考えてください。

風(が)



⇒「強い」という言葉が思い浮かびましたか？もしかしたら、ベトナム人の方で「大きい」を考えた人がいるのではないのでしょうか？

【解説】

「注意」に続く動詞は他に「(を)払う」「(を)促す」もあります。これらの表現はベトナム語にもありますか？

そして、「風が大きい」という表現は日本語にはありません。「風が強い」を使います。このように言葉と言葉の繋がりを見ると日越の表現の違いにも気付くことができます。

他に、「雨が上がる」「混乱を招く」はどうでしょうか。「上がる」や「招く」が理解できても、このような言葉との結び付きはちょっと難しいと感じる人もいるのではないかと思います。「手が回らない」という言い方も簡単な語彙の組み合わせなのですがちょっと難しい表現ですね。このような表現が表す内容やその理由などを考えると本当に面白いです。

【まとめ】

コロケーションは携帯電話やパソコンなどでの予測変換でも使われています。「雨」と入力すると自動的に「が」や「降る」が表示されるものです。これは会話やメールなどでよく使われるもので結び付きが強い(一緒に使われる確率が高い)ものですが、ビジネス場面や活字(新聞や資料)などでしか見られない堅い表現など日本語には多くの表現があります。そのような言い回し(表現)に気づく／理解できる／使えると皆さんの日本語力が更にアップしていくと思います。

【参考資料】

- ・『コロケーションで増やす表現ほんきの日本語』小野他(くろしお出版)
- ・『文法コロケーションハンドブック』中俣(くろしお出版)

【協力】

Dai Hai Yen 先生(Lac Hong 大学)

シンチャオ先生

この「シンチャオ先生」と次の「生徒にインタビュー」のコーナーでは、日本語を教えるベトナム人教師とその生徒であるベトナム人学習者の双方にお話を伺い、同じ学びの場において立場の異なる視点から感じたことや経験について記事を掲載しています。

今号のインタビューに答えてくれたのは、
国際交流基金ベトナム日本文化交流センター **Pham Thi Phuong Oanh** 先生です。

◆日本語を学び始めたのはいつからで、これまでどのぐらい日本語の先生をしていますか。

2002年から日本語を勉強し始めました。今まで7年ぐらい日本語の先生をしています。

◆どうして日本語の先生になろうと思いましたか。

2002年に大学に入るため、ハイフォンからホーチミン市にきました。そのとき、ホームシックで気持ちが落ち込んでしまいました。また、大学に入って初めて、「あ・い・う・え・お」から日本語を勉強し始めたので、いろいろな混乱に出会いました。ホームシックだったし、勉強するのも辛かったし、1学期が終わった後、大学を辞めてハイフォンに戻ろうと思っていました。でも、幸い、そのときの日本語の先生にいろいろな助言や慰めをいただいて、また勉強し続けられるようになりました。その時から、その先生のようになりたいという夢を抱きました。

◆日本語の先生をしていて、大変なことは何ですか。

どう教えたら学習者が楽しみながら日本語が勉強できるか考えるのは大変なことの一つです。また、世界の難しい言語の一つだと思われる日本語には似ている文法がたくさんあります。そのような文法をどうやって教えたら学習者がうまく使えるかというのも考えるのが大変だと思います。

◆日本語の先生をしていて、嬉しいことは何ですか。

自分が教えた学習者から「日本語能力試験に受かりました。」「日本語で実際にコミュニケーションできました。」という知らせをもらうのは日本語の先生として何よりうれしく思います。そして、うまく教えるために、いろいろなことを調べないといけません。そのうちに、自分でもたくさんのことが勉強できるようになるのもうれしいことだと思います。

◆日本語を教えている生徒はどうですか。

教えている生徒はほとんど活発で頭がいい人たちです。クラスの中で社会人のほうが多いので、始まる時間に全員が揃うことは望めませんが、遅刻しても頑張って出席してくれる人も多いです。日本語が好きで勉強し始めましたが、教室以外に日本語を使う機会があまりない人たちです。

◆日本語を勉強している生徒に望むことは何ですか。

日本語を勉強している生徒が自信をもって、日本語でコミュニケーションできるようになってほしいです。また、勉強したことを実際に生かせるように頑張ってもらいたい。

◆最後に、どんな先生になりたいですか。

知識の面にしても人格の面にしても学習者に信頼される先生になりたいです。



生徒にインタビュー

この「生徒にインタビュー」と前の「シンチャオ先生」のコーナーでは、日本語を教えるベトナム人教師とその生徒であるベトナム人学習者の双方にお話しを伺い、同じ学びの場において立場の異なる視点から感じたことや経験について記事を掲載しています。

今号のインタビューに答えてくれたのは、

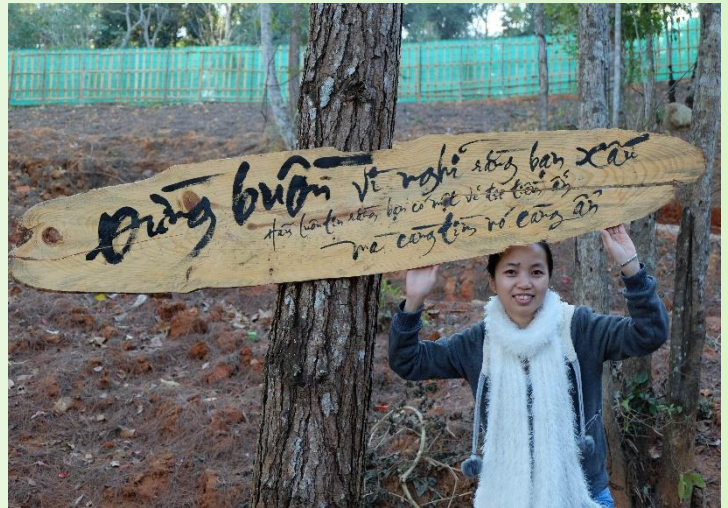
国際交流基金ベトナム日本文化交流センター(ホーチミン) JF 講座受講生 **Tran Thi Bich Phuong** さんです。

◆いつから日本語を勉強していますか。

約3年以上前から日本語を勉強し始めました。それは大学2年生の時でした。

◆どうして日本語を勉強しようと思いましたか。

外国語を勉強することが楽しくて、好きです。子供のとき、外国語を勉強したら、世界中のいろいろな人と話せると想像していました。英語を勉強していましたが、日本語と日本文化にも興味がありました。大人になったらこの興味はもっと大きくなりました。特に、アニメと漫画が大好きです。漫画はほとんどベトナム語で読みましたが、アニメは日本語だけで聞きました。でも、アニメにベトナム語と英語のじまくがないと、とても大変です。アニメのじまくがなくても分かるという夢を持っていました。それで、日本語を勉強することにしました。



◆OANH 先生はどんな先生ですか。

今、ほとんどオアン先生が私のクラスで教えています。先生は親切で専門知識があり、とてもいいです。勉強するとき、わからないことについて、先生にいろいろ聞きました。先生は詳しく分かりやすく説明してくれました。たまに、先生も分からないこと(あまり使わない言葉)がありましたが、そのとき、意味が同じ別の言い方を教えてくれました。次回の授業のときに、また、正しい言葉をもう一度教えてくれました。私たちにそんなに熱心にしてくれて、うれしいです。このクラスで日本語が勉強できて、私は運がいい人だと思います。

◆日本語を勉強していて、難しいことは何ですか。

難しいことはたくさんありますが、一番難しいのは動詞だと思います。他動詞と自動詞があるので、いつも間違えてしまいます。ベトナム語には他動詞と自動詞がないですから。また、日本語の動詞の活用もたくさんあり、それぞれの使い方と意味も違います。

◆日本語を勉強していて、楽しいことは何ですか。

漢字を勉強するのは難しいですが、楽しいです。ベトナム語では漢越語がよく使われています。漢越語の発音は漢字の音読みとだいたい同じです。それで、漢字の音読みを聞いてその漢字の形を見たら、想像できます。当たっても、当たらなくても、面白いです。ただ、日本人が使っている漢字の意味はときどき漢越語と全然違います。

◆日本や日本語の好きなところはどんなところですか。

アニメや漫画以外は、日本の教育にあこがれています。子供たちは自立できるように育てられています。勉強のほかに、いろいろな活動に参加するので、小学生は知識も体力もよく成長していくと思います。

◆これから日本語とどう関わっていきたいですか。

今、日本語はまだ上手じゃないので、日本語を勉強し続けます。遠い将来日本語でどんなことができるかまだ分かりません。でも、近い将来にはたぶん簡単な漫画が翻訳できると思います。漫画を翻訳して、昔の私のように日本語が全然わからない人にシェアしたいです。

「日本語でお仕事」のコーナーでは、日系企業で働くベトナム人の視点から仕事について感じたことや経験について記事にしました。また、同一の職場で働く日本人にもお話を伺い、立場の異なる視点から仕事について感じたことや経験について記事にし、掲載しています。今号のインタビューに答えてくださったベトナム人の方は、Bac Ninh 省にある、キヤノンベトナム株式会社 Nguyen Thi Thuy Duong 様です。

◆いつから日本語を勉強していますか（どんなところでどのくらい日本語を勉強しましたか）。

2002年9月からハノイ国家大学の日本語専門課の1年生として日本語の勉強を始めました。

◆今の仕事を始めたきっかけは何ですか（どうして今の仕事を選びましたか）。

私の故郷はBAC NINH 省ですので2006年6月に大学を卒業してからQueVo工業団地にあるキヤノンの入社試験に合格して社員として今まで働いています。

◆仕事の内容を簡単に教えてください（どんな時、日本語を使って仕事をしますか）。

私の仕事は各ベンダーさんの部品品質を向上するための改善活動を展開したり、社内の部品品質トラブルを処理することです。また、帳票類翻訳や社内イベントの通訳も担当しています。

◆どんな時、仕事が大変だと感じますか。

いくら改善してもベンダーの品質がなかなか向上出来ない時は大変さを感じます。

◆どんな時、仕事が楽しいと感じますか。

目標が達成したときに仕事が楽しいと感じます。

◆これからどんな人になりたいですか。

日本人と間違われるくらいに日本語を使えるようになりたいです。

◆日本語を使って仕事をしたい人にアドバイスをお願いします。

日本語を学ぶ手段として教科書や学校だけでなく、実際に日本人と関わり色々な日本語の使い方を学んでください。

日常会話をするだけでも、教科書などでは学べないことがたくさんあります。



「日本語でお仕事」のコーナーでは、日系企業で働くベトナム人の視点から仕事について記事にすると共に同一の職場で働く日本人にもお話を伺い、立場の異なる視点から仕事について感じたことや経験について記事にし、掲載しています。

今号のインタビューに答えてくださった日本人の方は、キヤノンベトナム株式会社 **山崎 浩一** 様です。

◆御社（貴社）の会社概要を教えてください。

弊社は2001年4月に設立され、現在3つの工場（ハノイ市タンロン、バクニン省クエボ、ティエンソン）でレーザービームプリンター、インクジェットプリンター、スキャナを生産し全世界へ輸出しています。21000人の従業員数、生産規模ともキヤノングループの中では最大の工場です。昨年よりカラーレーザープリンターの生産を開始するなどより高機能、高付加価値の製品を手がけるようになってきました。

◆日本語が話せるベトナム人の方にはどんな仕事を担ってもらっていますか。

弊社では英語でのコミュニケーションを基本にしていますが、日本語スタッフには日本から送付されてくる帳票類翻訳、日系サプライヤとの業務コミュニケーション、日本からの出張者のサポートなどを担当してもらっています。技術用語をよく使うため、専門性と経験が必要とされる仕事です。また、社内イベントの通訳など隙間を埋める仕事でも活躍してくれています。

◆ベトナム人と一緒に働くことはどうですか。

何事に対しても明るく前向きでエネルギッシュな彼らから、我々も元気をもらっています。学ぶ意欲と向上心のある人が多く、日本人も「負けられない」気持ちになりよい刺激を受けています。英語を学ぶスタッフが多いですが、日本語を学んでいるメンバーも多数おり、将来彼らが機軸となってコミュニケーションの幅が広がることに期待しています。

◆ベトナム人従業員に求めることは何ですか。

まず第一に仕事に誠実であること。高品質の製品を安定的かつ大量に生産するためには、仕事の手順をしっかり守り、問題に対して真摯に迅速に対応することが必要です。また、結果のみの報告ではなく、その結果どのような結論を導くのか本人がしっかり考えることも大切です。仕事のプロセスが正しければ期待した成果を継続して出すことができるようになります。基本中の基本ですが、常に目的意識を持ちその達成に向けてPDCAを確実に回すことがジョブスキルの向上につながります。



◆ベトナム人従業員を採用するとき、どんなところを見ていますか。

- 仕事に対する自分なりのしっかりとしたポリシーを持っているかどうか。
- この職務を選択した理由と長期に働く意思があるかどうか。

◆その他、読者に伝えたいベトナム人スタッフとのエピソードなど何かあれば、お願いします。

弊社のベトナム人社員をみていると、本当に「イベント好き」であり「楽しむ」ことについてはベトナムの方が長けていると感じます。創立記念祭、社員旅行、サッカー大会、家族の工場見学など様々な行事を行っていますが、企画から実行までの準備を入念に行い、突発トラブルにも素早く臨機応変に対応する姿には感心させられます。創立記念祭でのステージコンテストは年々レベルが上がっており一見の価値があります。見るだけだった日本人もコンテストに参加するようになってきました。「キヤノンベトナムは第二の家族」という言葉を社員からよく聞きます。イベントだけではなく仕事での一体感を持つために、対話の機会を増やすこと、OJTや組織横断活動に力を入れている効果だと思えます。

笑顔の日本語クラス

いけばなで学ぶ 日本語 2016

in ハイフォン

2016年5月28日～6月1日の5日間にわたり、国際交流基金ベトナム日本文化交流センターの文化講座、『いけばなで学ぶ日本語 2016』を行いました。昨年に引き続き、草月流指導者連盟顧問 永井 裕遙(ながい ゆうよう)先生にご協力、ご指導をいただきました。

今年の『いけばなで学ぶ日本語 2016』は、ハノイだけでなく、ハイフォンにも足を運び、ハイフォン公立大学でハイフォンの学生のみなさんにも生け花を体験していただきました。

今号の「笑顔の日本語クラス」を執筆してくださったのは、ハイフォン公立大学 松原 幸子先生 です。

6月1日にハイフォン公立大学において国際交流基金ベトナム日本文化交流センター主催の「いけばなで学ぶ日本語 2016」が行われました。当日は、ハイフォン公立大学の学生だけでなく、ハイフォン私立大学やハイフォン工科職業短期大学等からも、午前の部、午後の部合わせて、計40名の方が参加して大変盛り上がりしました。

受講生は全員生け花初体験とあって、最初は緊張した面持ちでしたが、「いけばなクイズ」などの活動の後、次第に生け花の世界に溶け込んでいったようでした。講師の永井先生が生けられたグラジオラスと蓮の二つのお手本の美しさには、みんなうっとり。自分もあのように生けたいという気持ちがかき立てられたのか、どの受講生も声も立てず真剣に自分の作品の制作に取り組んでいました。



和紙の特徴を生かしたオリジナルの花瓶作りから始まって、「一花一葉」をテーマに、それぞれが思い思いにお花と葉を組み合わせ、自分の作品を完成させることができ、どの受講生も自分の生けたお花を前に満足げでした。

永井先生に質問するコーナーで、普段の授業ではおとなしい学生が手を挙げて先生に自分の聞きたいことについて積極的に尋ねていたことに驚きました。また、「生け花に関して何か知っていることはありませんか。」という問いかけに対し、インターネットで調べたさまざまな事柄を居並ぶ参加者の前で堂々と発表する学生もいて、教師として誇らしくさえ感じられました。その他、先生が生けられたお花を見て、ベトナムも日本も花を愛する心は同じだと思うが表現が違うのは文化の違いによるものだろうという自分の考えをしっかりと発表してくれた学生もいました。

ハイフォン大学の学生は、他のベトナムの学生と同様にアニメや漫画に代表される現代の日本の若者の文化には慣れ親しんでいますが、生け花のような伝統文化に触れた経験はこれまでほとんどなかったとのことでした。

永井先生から、お花の生け方だけでなく、生け花の心を教わり、ハイフォン大学の学生を始めとする受講生全員、日本語を学ぼうという思いがさらに高まったようです。

高速道路が開通して、ハイフォンとハノイは1時間半でつながる距離となりました。しかし、特にハイフォンの大学生にとってハノイはまだまだ遠いところです。ハノイで文化講座が開かれたとき、今回のようにハイフォンまでお越しいただくことができれば、学生は生の日本文化に直接触れ、若々しい感性でそれを深く吸収することができるでしょう。そして、それは将来、日本とベトナムの交流の強い懸け橋として作用するに違いないと思う次第です。



今号の執筆者:

三友有限会社社長
Mai Hoang さん



日本への道

この「日本への道」のコーナーでは、日本に留学経験のあるベトナム人の方にお話をうかがっています。今日本語を学習しているみなさんの中にも、日本への留学に関心がある人が多いのではないかと思います。留学のためにはどのような準備が必要か、どの程度の日本語力が必要か、そして日本の生活がどんなものかを、実際に留学した先輩のお話を読んで、少しでも参考にさせていただければと思います。

◎いつから日本語を勉強していますか。

日本語は2001年の8月から勉強を始めました。今になっても日本語の勉強は続けています。

◎いつからいつまで日本へ留学しましたか。

2002年3月から2009年3月まで計7年間日本に留学しました。

◎どこへ留学しましたか。また、どんなところで勉強しましたか。

最初の留学先は東京でした。

東京で2年間新聞配達のアパート(朝日奨学生)をしながら、亀戸にある東京ワールド外語学院に通いました。その後、茨城大学工学部機械工学科に合格し、4年間茨城県で大学生生活を送りました。大学卒業後、新潟県で短いながら日系企業に勤めた後、2009年に帰国しました。

◎留学でどのくらいお金がいりましたか。

私はドンズー日本語学校の留学生であったため、当時費用は、ほとんどかかりませんでした。それでも日本での生活を準備するために、1000ドルくらいは持っていきました。

◎留学中の思い出を教えてください。

留学は違う国で勉強するため、異文化に触れるチャンスが多くありました。そのため、私はそのチャンスを逃さずいろんな活動に参加しました。スピーチコンテストや作文コンクールや茨城県の親善大使等の活動をしてきました。これらの活動で結果を得た時は一番楽しかったです。特に茨城県の親善大使として活動した時、小学生と文化交流の授業を行い、子供からの感謝のメッセージを読んだときは楽しく、心に残りました。

しかし、日本での留学で大変だったことは、アルバイトと勉強の両立バランスを保つことでした。アルバイトをしないと生活費と学費は払えず、アルバイトをすると少なからず大学の成績に影響はありました。ある時期は白髪が出るほど大変でしたが、その後は何とか乗り越えて大学を良い成績で卒業しました。

◎留学を考えている人へのアドバイスをお願いします。

留学することは人生に非常に良いことです。異文化に触れてこれまでの自分と自分がいた場所との違いが分かり、人生観が広がります。そのため、留学のチャンスをもとにした人はぜひ積極的に異文化に触れるよう活動等に参加し努力してください。ぜひそこでベトナムの文化を紹介するとともに日越の友好が深まるよう人間関係の輪も作ってください。

お知らせ

日本留学Q&A

在ベトナム日本国大使館のWEBサイトで、

日本留学についての様々な情報を知ることができます。

日本留学に関心のある方は、以下のサイトへアクセスしてみてください。

http://www.vn.emb-japan.go.jp/jp/culture/jp_ryugaku.html

2016年6月17日(水)に、日本語パートナーズ2期のみなさんが帰国しました。

日本語パートナーズのみなさん ありがとうございます!

坂本 憲太郎(さかもと けんたろう)先生



初めての習字なのに、みんなとっても上手に書きましたね!
ハノイ Lang Thuong 中学校 8年生

日本語パートナーズとは、ベトナム中等教育機関に派遣され、現地日本語教師と学習者の日本語学習のパートナーとして、授業のアシスタントや会話の相手役といった活動をするとともに、教室内外での日本語・日本文化紹介活動等を行い、ベトナム日本語教育を支援する日本人です。日本語パートナーズ2期のみなさんは、2015年8月から2016年6月までの10か月間、ベトナム各地の中学校と高校で活躍してくれました。今号では、日本語パートナーズがベトナム人の先生や生徒と一緒に活動した様子について、一人ずつ写真を添えて掲載します。

内田 千景(うちだ ちかげ)先生



暑い日に、そうめんじゃなくて Bun 流しで涼しくなりました!
フエ Nguyen Tri Phuong 中学校 タイの生徒との交流会

花村 一郎(はなむら いちろう)先生



ふるしきで身近な、ペットボトル、教科書、ヘルメットを包みました
フエ Nguyen Hue 高校 日本語クラブ

梶原 香苗(かじわら かなえ)先生



ダナンの風景を生徒達が紹介してくれました!
ダナン Tay Son 中学校 7年生

高村 安代(たかむら やすよ)先生



一年の締めくりに日本祭り。皆さん、ありがとう!
クイニョン Le Quy Don 高校 10, 11年生

田中 順一(たなか じゅんいち)先生



時には机も教具に変身
ホーチミン Marie Curie 高校

重藤 愛乃(しげとう あいの)先生



会話練習の授業風景
ホーチミン Vo Truong Toan 中学校 8 年生

阿部 道弘(あべ みちひろ)先生



日本の遊びの一環のけん玉を紹介しています
ビンズオン Hung Vuong 高校 日本まつり

辻本 覚美(つじもと さとみ)先生



何が好きですか？教えてください！
ビンズオン Nguyen Van Tiet 中学校 6 年生

橋本 渡(はしもと わたる)先生



数字の学習・みんな元気いっぱいです
バリアブントウ Tran Hung Dao 高校 10 年生

市川 明義(いちかわ あきよし)先生



みんなでゆかた、きれいでしょ？
バリアブントウ Dinh Tien Hoang 高校